

アルシャサウルス

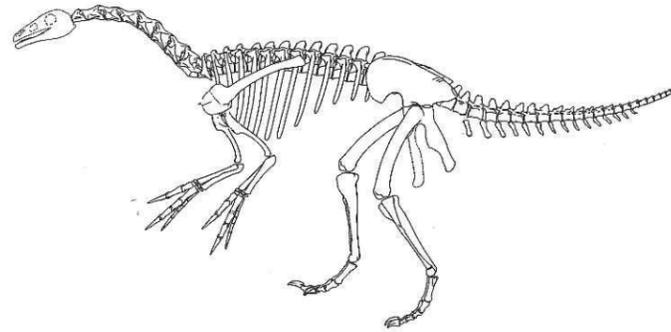
Alixasaurus elesitaiensis Russell and Dong, 1993

アルシャサウルス(1面の写真を参照)は、中国、内モンゴル自治区に広がるアラ善(アラシャン)砂漠の白亜紀前期終わり頃の地層(Bayin Gobi Formation)から1988年に発掘されました。この恐竜の発見によって、それまで不明であったテリジノサウルスとセグノサウルス類の関係が近いものであることがわかり、これらが獣脚類の中の、マニラプトル類の一員であることがわかってきました。

アルシャサウルスは全長約3mで、頭は小さく、下あごには約40本の小さい歯が並び、あごの前方には歯がはえていません。尾は短く恥骨が後方を向いています。テリジノサウルスの仲間としては、前足のかぎ爪は小さく、後足のかぎ爪もつぶれた薄い形のものではありません。

アルシャサウルスを含むテリジノサウルス類は、河川

や湖でできた地層からよく発見されています。歯の形態から、植物食であるとも考えられていますが、食性も含めてその生態には、まだ多くの謎がのこされています。前足の大きなかぎ爪を何に使ったのかということはまだよくわかっていません。



アルシャサウルスの全身骨格復元図
未発見の部分は点線で示してある。
Russell and Dong, 1994にもとづく。

作文コーナー

岩永 知さん(福岡県)の
作文です。



御船町恐竜博物館情報誌
ダイナソートピックス No.8

■発行日/平成15年3月31日

■編集・発行/御船町恐竜博物館

〒861-3207 熊本県上益城郡御船町大字御船995-3
TEL (096) 282-4051 FAX (096) 282-4157

<http://www.mifunemuseum.jp/>
Email/info@mifunemuseum.jp

印刷/株式会社トライ

Dinosaur Topics



No.8

2003.3.31

日本初
常設展示

テリジノサウルス類の 全身骨格標本(レプリカ)が やってきた!



当館では、御船層群の化石をはじめ、地域の自然史資料と、それらを理解するために必要な比較標本の収集に力を入れています。今のところ、御船層群から発見される恐竜化石は、バラバラになった骨の化石であるため、恐竜の全体の姿を理解するためには、どうしても、全身の骨格が必要です。これまで、御船層群から発見された恐竜と同じ仲間だと考えられるものを中心に、少しずつ収集してきました。

今回、中国科学院古脊椎動物古人類研究所 董枝明教授のご協力により、1993年に中国から報告されたテリジノサウルスの仲間、アルシャサウルスの全身骨格標本を入手することができました。2003年の夏休みから展示する予定で、おそらくこれは、テリジノサウルス類の全身骨格の常設展示としては、国内初のものになると思います。ぜひじっくりとご覧ください。

12月8日(日)
博物館サンデーセミナー
「恐竜の不思議」
参加者12名

今年度5回目のサンデーセミナーは「恐竜の不思議」です。子どもから大人まで12名の参加がありました。今回のセミナーの目的は、「日頃

何気なく見ている恐竜の骨格をよく見てみよう！」というもので、特に足の指に注目して、観察しました。コモドオオトカゲは私たちヒトとおなじで5本の指があります。しかし1本の指の中にある骨の数はちがいます。鳥類、アロサウルス、ティノクスなどには、4本の指があり、それぞれの指の骨の数も同じです。そして、指ごとに、骨の数が決まっていることに気づきました。最後に実際に御船で発見された化石のレプリカをつかって、「この骨はこの骨のどの部分でしょう」の難題！?に参加者は真剣に取り組んでいました。「日頃、観察することのない視点で恐竜をみることができ、とてもおもしろかったです。じっ



くり見たはずなのに骨の数が合わないなんて(笑)。子どもと同じレベルで学習できるのでいいですね(熊本市内の保護者)。「いろんなほねがわかっておもしろかった。とくにクイズがむずかしくて、でもたのしかった(熊本市内の小学3年生)。「足の骨の観察など日常生活において、することがないのでとても勉強になりました。子ども(小3)もたいくつすることなく楽しんでいました(熊本市内の親子)と小さな発見に感動されたようでした。日ごろ何気なく見ている身のまわりのものでもよく見てみるときっといろいろな発見があるでしょう。

これでいいかなあ!

2月2日(日)
博物館サンデーセミナー
「紙で恐竜をつくらう」
参加者63名

第6回のサンデーセミナー「紙で恐竜をつくらう」が御船町カルチャーセンターであり、町内外から63名の参加がありました。色画用紙で作ったクビナガリュウ、アパトサウルス、ステゴサウルスなどで、体のつくり(体型)や種類(分類)を学習した後、クビナガリュウ(海竜)、アパトサウルス、ステゴサウルスの3体のうち、それぞれ1体を選んで作りました。

「たのしかったです。むずかしいところがいっぱいあったけどできました。」(小2)。「たのしく恐竜づくりが出来ました。子どもといっしょに作ったので親子のたのしいひとときをすごしました。」(町内、大人)。2時間があっという間に過ぎ、会場では出来上がった恐竜や海竜を手にして、親子での品評会がおこなわれていました。



3月23日(日)
博物館サンデーセミナー
「アンモナイトの内部構造」
参加者20名

平成14年度7回目の講座、「アンモナイトの内部構造」に20名の参加がありました。まず、アンモナイトの殻の内部の予想してもらってからモロッコ産のアンモナイトをサンドペーパー(5段階)で研磨しました。完全に内部が見えるまで研磨したあと、肉眼では分かりにくい内部の構造を顕微鏡で見ると「わあ、すごい!こんなにっているんだ」と感動します。最後にアンモナイトの内部と、それに似たオウム貝の内部との違いや巻貝との違いなどを学習しました。またアンモナイト断面にピンをつけて手作りのバッジが出来上がりました。きっと思い出が詰まった宝物のひとつになることでしょう。参加された方々から「子どもの付き添いできたのですが、一緒に夢中になって削って楽しかったです(熊本市)。「時間がかかったけどおもしろかった。機会があったらまたやってみよう(御船町、中1)。「アンモナイトをけずったから、もったいないと思ったけど、けずって中をしらべるからよかった(八代市、小4)。など感想をいただき、2時間ほどのセミナーを楽しくすごされたようでした。



もう少しだ!



12月21日(土)
「ビカリア」

3月15日(土)
「ほ乳類の歯」

土曜日だ博物館に行こう!

「ビカリア」と「ほ乳類の歯」

12月21日(土)のレプリカづくりは「ビカリア」をテーマに15名の参加がありました。また、3月15日(土)は「ほ乳類の歯」をテーマにして実施されました。

「ビカリア」には突起があるので石こうを流し込むのも慎重にやらなければなりません。城南町から参加した小学2年生の女の子は、「ほんものみたいにできてよかった!」と完成したレプリカを手にして喜んでいました。

「ほ乳類の歯」では、ほ乳類の歯のいろいろなタイプを学習した後、第三紀のほ乳類の歯の化石のレプリカをつくりました。



お知らせ

楽しい行事や話題いっぱい!!

御船町恐竜博物館 e会員募集中!

御船町恐竜博物館では、行事案内や最新ニュースを電子メールで受け取ることができる、e会員を募集しております。現在会員数は220名を数えております。入会金、会費等は無料で、申込方法はとても簡単。下記アドレスまで、メールをお送りくださるだけで結構です。
[email] info@mifunemuseum.jp

お知らせ

メールやFAXでもOK!

「ダイナソートピックス」に記事を投稿してください!

御船町恐竜博物館が、「モノが陳列されているつまらない場所」にならないように、博物館に集う皆様とさまざまな活動をおこなっていきたく考えています。博物館の活動にどんどん顔を出し、口を出し、自分たちの博物館として育ててもらえればと思っています。「ダイナソートピックス」編集室では、博物館に対する提言、話題提供、研究ノート、記事など広く募集しております。多数のご投稿お待ちしております。